

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 知識の概念的な理解を問う問題に弱く、特に文章による説明する力が弱い。また、言葉の特徴や使い方、言語文化に関する力が不足している。 <指導上の課題> 知識・技能の定着が低い生徒への支援や、個々の習熟度に応じた支援が十分ではない。	⇒ 本校独自の自主学習の取組「実のチャレ」を実施し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む。その中で、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」「ワークシート」等を効果的に利用し、知識・技能の定着が低い生徒や、習熟度に合わせて内容を学習できるように支援する。【毎週、金曜日に課題を配付し、休日に実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分が学んだ知識・技能を活用して、考えをまとめて表現したりする力が弱い。 <指導上の課題> 他教科との関連性や生徒の思考を深めていく授業展開が不十分などところがある。	⇒ 教科の学習内容と、STEAMS TIMEの活動との関連を意識し、教科等横断的な探究活動のより一層の充実を目指すための、校内研修や教科会を実施する。【年8回】 全教科で自分の考えをもたせ、学びの足跡を残す活動(授業アンケート等を効果的に実施)充実させ、必要な情報を見つけ出し、協議を通し、探究を深める言語活動を実施する。【単元ごとに実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語と数学の「知識・技能」の正答率が、共に全国平均を少し下回った。国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。数学は「数と式」「図形」「データの活用」の平均正答率で全国平均を上回ったが、「関数」において課題が見られた。	
思考・判断・表現	国語と数学の「思考力・判断力・表現力」の正答率が、共に全国平均を上回った。国語は「話すこと・聞くこと」「読むこと」の平均正答率が全国平均を上回ったが、「書くこと」において、特に「読み手の立場に立って、表記を確かめ、文章を整える」の問題に課題が見られた。数学は、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」は全国平均と比べて大きく上回ったが、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」において課題が見られた。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	全学年において「実のチャレ」の課題を毎週金曜日に配付し、休日に学習させることができた。その中で効果的に、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」「ワークシート」等の課題を与え家庭学習を推進することができた。普段の授業で知識の定着度が低い生徒も積極的な姿勢が見られた。しかし、未提出の生徒の対応や、習熟度別の課題の与え方には課題が見られる。また、「ドリルパーク」「スタディサプリ」の活用状況は、教科や学年、各生徒の間でも使用率に大きく差が見られる。
思考・判断・表現	B	自身の教科とSTEAMS TIMEの関連を図り、教科等横断的な探究的な学習を目指した授業実践に向けた研修や教科会を、現時点で5回ほど実施することができた。全教科で生徒に示す学習課題を明確化し、その解決に向けて、必要な情報を集め、協議を通し、解決を目指す授業を実践できているが、学びの足跡を残す振り返りの方法については、また改善や向上の余地が見られる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)